

2018 年度（平成 30 年度）

自己評価報告書

2019 年（令和元年）8 月 27 日

学校法人 東杜学園  
国際マルチビジネス専門学校

# 目 次

1. 学校の現況	3
2. 評価の基本方針	6
3. 重点目標	7
4. 項目毎の記述	
(1) 教育理念・目標	9
(2) 学校運営	10
(3) 教育活動	11
(4) 学修成果	13
(5) 学生支援	14
(6) 教育環境	15
(7) 学生の受入れ募集	16
(8) 財務	17
(9) 法令等の遵守	18
(10) 社会貢献・地域貢献	19
(11) 国際交流	20

# 1. 学校の現況

## (1) 設置者及び学校名

設置者	学校法人 東杜学園
学校名	国際マルチビジネス専門学校
代表者	理事長 野口 友子

## (2) 所在地

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 8 番 32 号

## (3) 沿革

1949 年 6 月	「宮城県経理友の会」会長 野口一郎（仙台商工会議所内に設置）
1951 年 4 月	東北経理実務学校創立 開校（設置者 野口会計受託株式会社） 「校章」「校訓～五常訓（健康・誠実・節約・信義・研鑽）」制定
1953 年 2 月	（学校設置者変更認可）財団法人 東北経理実務学園
1956 年 9 月	創立 5 周年記念式典「校旗」「校歌」制定
1961 年 4 月	創立 10 周年記念式典
1963 年 7 月	（学校法人変更認可）学校法人 東北経理実務学園
1971 年 9 月	創立 20 周年記念式典
1973 年 10 月	（校名変更認可）東北経理専門学校

- 1976年 3月 学校法人 東北経理学園 専修学校制度施行・昇格認可
- 1981年 10月 創立 30 周年記念式典
- 1991年 10月 創立 40 周年記念式典
- 1994年 3月 (校名変更認可) 東北情報経理専門学校
- 1997年 3月 新校舎落成
- 1997年 4月 (法人名・校名変更認可) 学校法人 東杜学園  
国際マルチビジネス専門学校 開校

現在に至る

#### (4) 学科編成

##### ①商業実務専門課程 昼間部 2年制

- ・ 国際観光学科
  - トラベル専攻
  - ユニバーサルツーリズム専攻
  - トラベル外国語専攻
- ・ 国際ホテル学科
  - ホテル専攻
  - 料飲サービス専攻
  - ホテル外国語専攻
- ・ ブライダルビジネス学科
  - ブライダル専攻
  - ブライダルスタイリスト専攻
  - 海外ウェディング専攻
- ・ 販売ビジネス学科
  - ショップビジネス専攻
  - ファッションビジネス専攻
  - ビジネス外国語専攻
- ・ 総合英語学科
- ・ 日本語ビジネス学科

##### ②商業実務専門課程 昼間部 1年制

- ・ 国際観光学科 トラベルキャリア専攻
- ・ 国際ホテル学科 ホテルキャリア専攻
- ・ ブライダルビジネス学科 ブライダルキャリア専攻
- ・ 販売ビジネス学科 ビジネスキャリア専攻
- ・ 総合英語学科 英語キャリア専攻

#### (5) 学生数及び教職員数

在校生数	167名 (2018年4月1日現在)
教職員数	79名 (2018年4月1日現在)

#### (6) 学園理念

多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する

## 2. 評価の基本方針

- (1) 実践的な職業教育を行う教育機関としての責務、及び関係業界等のニーズに迅速且つ的確に対応し得る波及力、以上2つの視点について客観的な検証と評価を行う。
  
- (2) 評価については、定性的かつ定量的なデータを基に信頼性と妥当性のある結果の確保に努めるとともに、学園理念及び教育基本方針との照合を実施し、より質の高い職業教育が可能となるよう、学校運営の組織的かつ継続的な改善を図る。
  
- (3) 客観的且つ多面的な自己評価を実施することで、学校運営の更なる改善に努めることはもちろんのこと、実践的な職業教育の水準向上に努め、地域社会及び国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

## 3. 重点目標

### (1) 重点項目

職業人前教育を担う教育機関としての専門学校的位置付け及び特色を意識し、時代を問わず社会より普遍的に求められる「専門性」・「社会性」・「人間性」・「国際性」の4点の育成を目指す。

上記を達成する上で、以下4点の支柱を明示する。

- ①学生の積極的な学修参加
- ②退学の防止
- ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上
- ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

### (2) 取組状況・成果

#### ①学生の積極的な学習参加

認定4学科全てにおいて、立案から実施までの工程を学生が担当する実習制度を導入している。社会人として必要とされる「課題発見能力」及び「課題解決能力」の育成を主眼とするのみならず、課題遂行上不可欠となる「コミュニケーション能力」の向上など、「社会性」を学修する場ともなっている。

#### ②退学の防止

オープンキャンパス等において、専門学校の特長、教育理念、就職実績、そして学生納付金等について、細部に渡る説明を実施し、入学前のミスマッチの防止に努めている。

また、担任制の導入により、入学後に定期的な個人面談を実施。さらに、定期的な出欠率の確認と指導を徹底することで、学生の個別性の把握に努めている。

一方で、進路変更等が生じた場合は、休学及び転科を視野に入れた指導を実践することで、退学の防止に努めている。

### ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上

求人数の増加、早期からのキャリア教育、そして就職支援担当ならびに各担任のきめ細かな指導が功を奏し、2018年度日本人学生の就職率は、100%となった。外国人留学生においては、内定辞退後に特定活動ビザにて現在も就職活動を続けている学生を除き、希望者就職内定率は100%となった。

### ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

年々深刻さを増す18歳人口の減少に加えて特出すべき事項の1つに、外国人留学生の増加がある。また、「語学力」を採用の絶対条件とする企業が増え続けている。社会に求められる人材の育成を担う教育機関として、外国語教育の拡充と外国人留学生の受入れ体制の確立は、より一層重要度を増している。

2017年度に新設された「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」では、初の卒業生を輩出することとなり、語学力を生かした分野での活躍が期待される。

## (3) 今後の課題

### ①人間教育の更なる充実

日々刻々と変化する社会情勢の中で、若年者を取り巻く環境は大きな変化を遂げている。学習環境はもちろんのこと、他者との結びつきや家族関係においても、世代間で大きな違いが存在する。

しかしながら、いつの時代も求められる資質の1つに、「コミュニケーション能力」があげられる。自己表現力や傾聴力等の基礎的な能力はもちろんのこと、「ホスピタリティ精神」、そして躰に代表される「社会人としてのマナー」、これら2つの要素を習得でき得る人間教育の更なる充実は、今後も大きな課題となる。

### ②外国人留学生の学修及び生活指導のシステム構築

外国人留学生の受入れ及び教育にとって、「多言語化」、「日本語力」、そして「外部との連携」は重要な項目といえる。入学案内書やホームページの多言語化、日本語力向上のためのカリキュラム、そして日本語学校等との連携等が、今後も取り組むべき課題である。



## 4. 項目毎の記述

### (1) 教育理念・目標

評 価 項 目	自己点検 評価結果
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

本学園では、「専門性」、「社会性」、「人間性」、そして「国際性」の4大要素を基軸に教育活動を展開している。昨年度新設された「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科（留学生クラス）」は、設置2年目を迎えた。近年、「語学力」を重視する傾向にある関連業界に対して、より一層「国際性」を意識した育成人材像を掲げることとなった本学園は、語学力向上への取り組みを強化する一方で、不変的に求められる素質としての「人間力」の育成について、改めてその重要性を認識している。

#### ②今後の改善方策

「専門性」、「社会性」、「人間性」、及び「国際性」の4大要素は、関連業界のニーズに対応する人材育成において、その全てが不可欠な要素である。「国際性」を意識した語学力向上のみに傾注するのではなく、社会人としての基礎的な資質を向上させることを目標としながら、本学園の将来構想を計画することが求められる。

## (2) 学校運営

評価項目	自己点検 評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	3
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

「学校法人東杜学園寄附行為」に基づき、本学園では理事会ならびに評議員会を開催し、学園運営を行っている。経営方針や事業計画は、評議員会に諮問、そして理事会で承認決定の上、運営方針を決定している。就業規則他諸規程については、適宜整備及び改定がなされ、学園全体で更なる向上を図っている。

しかしながら、年々多様化する情報システム化について、対応し得る各教職員のスキルが課題として挙げられる。

### ②今後の改善方策

「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」の新設に伴い、学生情報は多様化している。これらの情報を取り扱う上で、業務の効率化を可能とするため、適宜研修等を実施するなどの対策が必要であると考えられる。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己点検 評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

## ①課題

今年度も引き続き、学科編成及び半期毎のカリキュラムの見直しを実施した。特に、「業界が求める知識や技術の習得」は、カリキュラムの作成と見直しにおいて、骨格となる事項である。

授業評価については、今年度も継続して実施した。10項目の質問と自由記述から構成された授業評価アンケートによって定量的かつ定性的なデータを収集し、各担当者へフィードバックを実施した。さらに、今年度から「学生の満足度向上」を目的としたアンケートを導入し、学生の生の声を反映でき得る態勢を整えた。

資格取得等の指導体制については、通常授業のみならず、授業時間外の個別指導や長期休暇中の特別講座など、今年度も引き続き万全の態勢を整えている。

職員の能力開発のための研修については、年々参加への意識が向上したことが影響し、定期的な参加の体制が築かれつつある。

しかしながら、関連分野の企業との体系的な連携、そして業界に精通する教員の継続的な確保については、引き続き努力を要する。

## ②今後の改善方策

専修学校において、関連分野の企業との連携や業界に精通した知識や技術を有する教員の確保は、必要不可欠な要素である。現在、引き続きご協力を頂いている関連分野の企業や団体は存在するものの、全ての分野において網羅されているとはいえない。

また、業界に精通する教員を継続的に確保できる体制づくりについても、検討が求められている。これら2つの課題については、今後も引き続き関連企業とのさらなる結びつきを強化するとともに、新卒採用実績を基盤とした関連企業の新規開拓等、改善を図ることが望まれる。

#### (4) 学修成果

評価項目	自己点検 評価結果
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

##### ①課題

個別性を重視したきめ細やかな就職指導は、継続して実践されており、就職率は今年度も100%に達する結果となった。特に、外国人留学生在が在籍する日本語ビジネス学科においては、内定辞退後に特定活動ビザにて現在も就職活動を続けている学生を除き、希望者就職内定率は100%となった。外国人留学生の進路達成が実現されたことは、今年度の大きな学修成果であるといえる。

資格取得については、通常授業、授業時間外での施設の開放、個別指導、そして土日祝日実施の講座等、昨年度から引き続き取得率の向上に努めている。今年度は、国際観光学科に在籍する外国人留学生在が、国内旅行業務取扱管理者試験及び総合旅行業務取扱管理者試験の2つの国家試験に合格する等、その成果が十分に伺える。

一方で、退学率は減少傾向にあるものの、依然として課題が残る。理想と現実のギャップによる学習意欲の低下は、近年注視すべく事項である「モチベーション」の問題に繋がり、結果として退学に至るケースが発生した。この課題については、外国人留学生にも同様に当てはまるものである。

また、卒業後のキャリア形成の把握についても、課題を残した。具体的な打開策を早急に打ち出していく必要がある。

##### ②今後の改善方策

「モチベーション」の問題による退学は、昨今個別でのフォローでも解決が難しい現状がある。キャリア教育の推進により、将来の仕事を想像することがより確実になっている一方で、働くうえで求められる人間力の形成が、今後より一層重要な課題になると考えられる。個別でのフォローはもちろんのこと、個別または集団での人間力の形成が、学生の「モチベーション」の問題を解決し得る1つの方略であると示唆される。

## (5) 学生支援

評価項目	自己点検 評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生の支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

少人数制、担任及び副担任制、ならびにカウンセラーの常駐等の学生支援は、今年度も引き続き十分な体制が整えられている。経済的な支援については、本校独自の奨学金制度、学費減免、及び分割納入制度は、近年増加する自学進学者等の経済的に修業困難な学生を対象に、引き続き実施している。また、このような状況を鑑みて、2019年度より国際ホテル学科夜間部を新設する計画が、現在進行中である。

保護者との連携については、年1回の保護者会の他、個別での対応も実施している。学生、学校、そして保護者の連携体制を、今後も継続して強化していく。

### ②今後の改善方策

学生支援体制については、今年度も継続して十分な体制が整えられている。しかしながら、高校・高等専修学校等との連携は、定期的な実施ではない。今後も引き続きニーズを探り、キャリア教育の一助となるべく対応を検討する必要がある。

## (6) 教育環境

評 価 項 目	自己点検 評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

昨年度、世界情勢の影響によって国内での実施に変更をされた1年次海外学科別研修は、今年度シンガポールでの実施となった。例年グアムでの実施が通例であった海外学科別研修は、東南アジアでの実施に変更され、これまでの研修内容を見直す絶好の機会となり、学生の満足度も非常に高いものとなった。また、日本語ビジネス学科対象の国内学科別研修旅行は、栃木県を中心に1泊2日で実施され、日本についての更なる理解を深める機会となった。

総合英語学科では、昨年度に引き続き、国際性を意識した教育環境の開拓を目的として、カナダ及びイギリスにて約4ヶ月間の海外研修を実施した。

一方で、学校内Wi-Fi、校舎3/4階の一部教室の工事、そして校舎2階のインテリア変更等、学内設備の整備が実施された。

防災に対する体制については、帰宅困難者の発生を想定して、学生全員に配布できる水、そして学内宿泊者に対する一部食料と寝袋を準備している。今後は、防災マニュアルを整備し、避難訓練の定期的な実施を視野に入れている。

### ②今後の改善方策

防災体制については、今後も定期的な見直しや改善が求められる。防災危機管理者の複数の配置、防災備品の整備、及び避難訓練の定期的な実施等を含めて、学園全体の意識向上について、引き続き努めていくことが望まれる。

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	自己点検 評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
学納金は妥当なものとなっているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

本学園では、学習意欲が高い学生の受入れを目的として、今年度よりAO入試を導入した。近年、進路決定の早期化がより顕著に表れており、このような現状に対応し得る入学方法の実施に至ったと考えられる。

また、外国人留学生の増加に伴い、留学生対象の学外ガイダンスに今年度も積極的に参加した。結果として、昨年度を大きく上回る入学者数を打ち出すことができた。

しかしながら、学生募集活動の適正さについては、大きな課題を抱えている。主にSNSを活用した募集活動において、正確に教育成果を伝達することができるのか、そして入学後における現実とのギャップをなくすフォローアップがなされているのか、時代のニーズに合わせた定期的な見直しが不可欠であると考えられる。

### ②今後の改善方策

進路決定における学生の意思決定は、ここ数年大きな変化を遂げている。オープンキャンパスに一度も参加することなく進学を決めるケースはもちろんのこと、Web上での情報を頼りに一度のオープンキャンパス参加で意思決定をする学生も増えている。このような世代観に対して、どのようにして効果的な情報を提供し、入学に結びつけていくかは、本学園にとって取り組むべく大きな課題の1つであることが示唆される。入学後のイメージを想起できるような学生生活や学習成果の定期的な情報発信が、今後の入学者増に大きな影響を与えると考えられる。



## (8) 財務

評価項目	自己点検 評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

学校運営に関わる予算については、年に2回実施される評議員会の諮問及び報告を経て、年度予算等の財務状況を確認し、理事会の承認を得て決定している。

学校財務情報については、資金収支計算書、消費収支計算書、そして賃借対照表をホームページ上に公開している。現在も引き続き、収入予算の細かな予測、そして支出の状況把握を行い、安定した財務基盤の維持に努めている。

また、2019年度に予定されている高等教育無償化の手続きに備え、財務情報公開に向けた準備が進められている。

一方で、継続的に一定の学生数を確保することが課題として挙げられる。

### ②今後の改善方策

社会のニーズに合わせた適正かつ的確な学生募集活動、退学者の防止、そして留学生の受入れ体制の強化及び見直し等、安定した収入基盤確保に向けた取り組みは、今年度も継続して不可欠とされている。中でも、昼間部の日本人学生の確保は、最も大きな課題であり、質の高い教育と的を射た広報活動が不可欠であると示唆される。

### (9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己点検 評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

本学園では、年度手続毎に法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。

個人情報については、個人情報保護規程を整備し、職員へ就業規則と共に周知し、適切な運用を行っている。マイナンバーについては、管理責任者を定め、着任及び退職時に適切な取り扱いを実践している。入学案内書等に掲載する際の在校生及び卒業生の個人情報の取り扱いについても、趣旨を説明の上、承諾書を受け取り、引き続き適正な処理が施されている。

しかしながら、自己評価の問題点について、毎年十分な改善がなされているか、疑問が残る。

#### ②今後の改善方策

2015年度に設置された学校関係者評価委員会より評価をいただき、学校運営にあたっての情報公開と改善について、継続的に取り組んでいるものの、全ての問題点に対して改善がなされていないといった問題が生じている。短期的な改善点については、迅速な対応がなされてはいるものの、中長期的な視点に立った問題については、課題が残る結果となった。改善点を再度検討し、中長期的な問題に対する方略を築いていくことが早急に求められる。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己点検 評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

各種検定試験、国家試験、そして入学試験等、本年度も引き続き受験会場として、教室の貸出を行っている。特に、レストランサービス技能検定学科試験、及びサービス介助士講座については、学生の専門的知識及び技能の習得に留まらず、社会貢献の面においてもその責務を果たしていると考えられる。

また、従来への献血活動や地域清掃に加えて、今年度も「金蛇水神社祭典神輿行列」に参加した。しかしながら、地域に対する公開講座や教育訓練の受託等については、今年度も課題が残る。

### ②今後の改善方策

職業教育としての専門学校のみならず、地域社会に向けた広義での教育機関として、その位置付けを今後も検討することが求められる。昨今では、大学から国家試験合格を目的とした連携講座の依頼をいただいている。知識と技術を地域社会へ還元すること、そして本校設置の各学科による地域貢献といったように、専門学校としての位置付けを柔軟に捉えていくことが今後の改善策と考えられる。

### (11) 国際交流

評価項目	自己点検 評価結果
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

昨年度新設された「総合英語学科」では、今年度も引き続き、イギリス及びカナダにおいて約4ヶ月間の海外留学を実施した。また、同様に昨年度新設された「日本語ビジネス学科」では、1泊2日の日程で、栃木県での国内研修旅行を実施した。双方ともに「国際的視野の習得」という目標を持ち、プロトコルを学ぶ最良の機会となった。

留学生の学修・生活指導等の体制については、内定辞退後に特定活動ビザにて現在も就職活動を続けている学生を除き、希望者就職内定率は100%となった。

日本語ビジネス学科では、昨年度を上回る外国人留学生が入学した。今後、学修・生活指導等の体制や方法のみならず、在籍管理体制の整備が課題として挙げられる。

#### ②今後の改善方策

国際性を意識した学修体制の強化を進めていくうえで、その重要性を強く感じた要素が「人間力」である。総合英語学科及び日本語ビジネス学科の新設により、国際的視野の習得といった目標に向けた支援体制の基礎を構築することができた。しかしながら、語学力の向上と併せてその必要性を強く実感したことが、人間力の向上である。本学園が掲げる「専門性」、「社会性」、「人間性」、及び「国際性」の4大要素は、それぞれが相互に影響を及ぼす関係にあり、改めて社会人としての指導の充実性を感じる結果となった。